

第4回赤穂海浜公園管理運営協議会 議事録

日 時：令和3年10月29日（金）10:00～12:00

場 所：赤穂海浜公園オートキャンプ場会議室

出席者：別添 出席者名簿参照

配布資料：資料1 赤穂海浜公園管理運営協議会開催要綱

資料2 魅力アップ計画アクションプランと今後の検討課題

資料3 赤穂海浜公園魅力アップ計画とリノベーション計画との統合

資料4 第3回協議会までの意見及びその対応

資料5 第2回協議会で提案した広報の実施状況と今後の対応

資料6 イベント募集の問い合わせ及び応募状況

1 開 会／事務局

開会挨拶 光都土木事務所長

この4月から光都に赴任し、海浜公園を所管しております。コロナも大分収束に向かってきたのではないかとこのころで、皆様におかれましても引き続きコロナに注意していただき、地域を盛り立てていけたらと思っております。それから当公園につきましても感染症対策を引き続き講じながら、利用の増進についてこの場を通じてご意見いただければと思っております。

本日の議題は主に3つとなっております。一つ目は今年の3月に県下の公園で策定したリノベーション計画について、二つ目は前回の3月の協議会でいただいたご意見に対する対応について、三つ目は広報・情報発信の強化ということで、特にSNSの発信について引き続きご意見いただきたいと思っております。それ以外につきましてもご意見いただければと思っております。それでは限られた時間ではございますけれども、よろしく願いいたします。

会長

所長も仰いましたけれどもコロナ禍が続いていまして、赤穂海浜公園でも魅力アップ計画を策定して、いろいろな活動を公園で自由にできるよう、こんなこともできるというようなことで広報してきたわけです。その期間がほぼコロナ禍と重なってしまい、応募は少ない中でもありますが、広く活用していただくという目的は達成されていないと思っております。ただこの間、周知はできておりますし、着実にいろいろなハード整備を行っていただいておりますので、それを土台にして、様々な方に公園を自由に使っていただくということに、またチャレンジしていこうと思っておりますので、皆様のご協力よろしく願いいたします。

2 赤穂海浜公園管理運営協議会について／事務局

(1) 管理運営協議会開催要綱の変更／事務局

- ・資料1を説明

(2) 第2回協議会での意見等／事務局

- ・議事録公表の報告

3 議事／事務局

- ・資料2を説明

(1) 赤穂海浜公園魅力アップ計画と兵庫県立赤穂海浜公園リノベーション計画との統合について

- ・事務局、県庁公園緑地課より資料3を説明

意見交換／各委員からの主な意見と事務局の回答

会長

魅力アップ計画をリノベーション計画に移行していくという内容であった。リノベーション計画として民間活力を導入し、具体的にはグランピング施設の整備、マリンスポーツの展開を図る等、わくわくランドに関しては大型遊具や水遊び場の新設という大きな整備をしていくということが書かれている。大きく変わるのは民間活力が入るかもしれないということである。その中で協議会は今このメンバーでやっているけれども、整備の際、民間事業者が入ってきたら、この場の構成も変わり、我々と商売をされている方との関係というものがより多様になっていくので、話し合うことや調整ごととも増えるということが想定されるという説明だと私は理解している。

委員

観覧車を撤去するという話があるが、観覧車は赤穂のシンボルマークになっている。だから、動かなくても「現在は営業していません」という看板をかけてでも観覧車を残してもらえないかというのが私の希望である。いろいろな写真やマップにも観覧車を含めた紹介をしており、撤去費用もかかると思うので、撤去せずにその費用を別のところに流用してほしいと思う。加えて、前回の会議から今回の会議までに期間があって、その間に東京オリンピックもあり、個人的にはオリンピックのスケートボードの公式の会場やボルダリングの会場を造る等、撤去費用をそちらに回してもらい新しく楽しめるスポットを作ってもら方がいいのではないかな。さらに、万人が喜ぶものを造るより、例えば今述べたような施設を造り、ニッチなニーズを取っていくべきである。そんな中で、当団体では三輪のトゥクトゥクという乗り物の導入を検討しており、他にも電動キックボード等を海浜公園の中においてそれ目当てに来られる方を増やしてはどうかとも思う。塩の国についても、私も塩づくり体験で塩を作って、とてもおいしい塩ができたのでこれをもっとピックアップするべきで、かん水はかん水そのものを販売しても売れるレベルのおいしさである。それと自分で作った塩で焼きそばを焼いて塩焼きそばを作るとか、バーベキューをしてその塩を振るとか園内でワンパッケージにしてしまうのも一つの方法であり、集客も変わってくる。

会長

観覧車については地元の方の多様な意見があるが、観覧車かどうかというよりもシンボルとしてきちんとしたものが欲しいのではないかなと思う。観覧車を残すとか、新たにシンボリックなものの整備をするか等いくつか方法があるが、それは今後協議していくと思う。新設した施設でもしも収益が取れるならば、整備後に管理してもらい儲けてもらうという方法もあるのではないかなと思う。ただそれは民間事業者の方の金銭的な話もあるのでこれから要検討という気がする。オリンピックを契機に各所でニュースポーツを行っており、新たな整備もニュースポーツとして使うところとその周りでそのような遊びをする子どもたちという使い方も十分に考えられるので、どんな方に来ていただけるかというニーズを調査しながら進めていただければと思う。

委員

塩の話について、塩は全国的にも知名度が低い。私が東京へ行くときはいつも持って行っており、関東の方も非常に喜ぶ。だから旅行会社、観光会社ともタイアップし、塩づくり体験を含めてPRできるではないか。

会長

公園、塩の国・科学館、キャンプ場といろいろな機関の主体が管理しているけれども、本当は一体となって管理することも一つの選択としてあるのではないかと思う。全てを思っているようなお客様を招くということも考えたほうがいいかもしれない。

委員

観覧車を残してほしいという話について、維持費が結構かかる。置いておくだけでも危なく、メンテナンス費用もかかり続けてしまう。

委員

10年以上前から観覧車をどうするかが最大の懸案事項であった。将来にわたって維持し続けるには莫大な負担がかかるため、この大観覧車が赤穂市のランドスケープとして非常に重要なものだとして認識しているからこそ、老朽化のみを理由として簡単に廃止するとは言いにくいというジレンマを抱えながらこれまで運営してきた。市等が引き取ってくれてランドマークとして残してくればありがたいと思っていたが、残念ながら折り合いがつかなかった。ある程度の利用はまだあるので、10年おきぐらいに1億円程度かかる大規模修繕を施しながら今までやってきたというのが実情である。今回、県がリノベーション計画を発表されたのを契機として、大観覧車を撤去する代わりに新たな施設整備等が行われ、赤穂海浜公園のさらなる魅力アップに繋がることを期待して今回の決断に至った。我々としては、大観覧車を残すためにこれまで最大限の努力を行ってきた。

委員

いつでも動かせる状態を維持するということはやめて、鉄柵で囲い、シンボルということを書いてもいいのではないか。

委員

腐食もかなり進行しており、見えないところで崩落するリスクもある。シンボルなので残して欲しいという意見もあるとは思いますが、残すだけでも相当の維持費がかかることをご理解いただきたい。

委員

遠くから見てわかるシンボルを観覧車撤去後に造ってもらえると助かる。市が事業者となるのは難しいということは分かった。

委員

この御崎、尾崎の海は小魚がたくさん釣れ、透明度も良い。最盛期の時代は旅館に泊まっていたお客さんを朝の1時間あるいは帰るまでの30分程度時間を作ってもらい、希望があれば船をチャーターし、近海に釣りに出て、釣った魚はお土産にしていた。近年は魚も少なくなっており、魚が減っているがゆえに、かつて生息していたハゼやテンコチ等によく見かける魚もなかなか見かけない。そのため、そのような魚を集めて営利目的で海中水族館を造れば、集客ができるという環境下ではある。何らかの形で観光客を呼ばないと来ない。付近に漁港はあるが水族館がないため、海を利用した魅力として規模は別として水族館的なものがないかと思っていた。しかし、造るには莫大な費用も必要で、管理的な問題もある。今回の計画で、県と民間

で共同出資することも考えて、この海を利用した施設の設置は一つの切望である。

会長

この海岸は釣りが禁止だったか。

事務局

海岸については夏の間、市で海水浴場を開設しており、海水浴場がメインになるが、基本海岸線は自由使用になるので禁止ではない。

会長

須磨海浜公園も夏場の海水浴のときだけは禁止にしてその他の期間は釣りが禁止ではない。このあたりは少なくなったといえども、この時期は落ちギスのメッカで投げ釣りでたくさん釣れたりするので、勝手に釣りをしていると思う。大規模な整備となると相当先の目標になるが、ファミリー向けに民間業者の方が波止場や丘から釣るような教室を開くというような運用ならできるかもしれない。コロナ禍でアウトドアが流行っていて、釣りも同じように流行っている。漁師さんが関係するならこの協議会でも十分話ができるのではないかな。整備としてはアウトドアスポーツ、特にマリンスポーツの方が多いいけれども、釣りも含めてマリンレジャーも考えることができる。

委員

観覧車がシンボリックなものというのは分かるけれども、1億も年間維持管理費がかかるということであれば、汎用的ではないある特定の方に対して需要のある、他にないような遊具を置いて欲しい。

会長

それはお金が取れるというイメージか。

委員

それは何を置くかによると思う。

委員

大規模修繕は別にして1年1000万円なので、10年で1億である。

委員

1000万円で他の遊具を置いても良いのではないかな。アウトドアの関係については海が近いのでSUPやカヤック等の体験型の商品を置いたら、赤穂に滞在する時間が長くなり、宿泊してもらえる。そういうものも整備してもらえれば一番ありがたい。

会長

本当の海もあり、公園の中に湖もあるということで、小さい子どもから年配の方まで楽しめる可能性があることが公園の魅力である。海では怖いという方への入口としては園内の湖は非常にいい気がする。

委員

海浜公園と言われるとおり、海浜とついているが海との関係性があまりない。横に千種川があり、園内に湖がある。そういうものとの関係性が、活かしきれてないような気がする。

会長

基本的には、我々が考えてきた魅力アップ計画からの延長。やり方はこれから協議したいという事で、特に違和感や大きな反対意見はなく、今後一緒に考えていくという事で良いか。いただいた意見は前向きに検討するので、よろしくお願ひしたい。

(2) 第3回協議会までの意見及びその対応について

・事務局より資料4説明

意見交換／各委員からの主な意見と事務局の回答

委員

アンケートの結果はどれくらいしているか。

事務局

毎年、年齢層、どこから来たかやどういう手段で来たか等、基本的な情報のアンケート調査をしている。細かいアンケートだと答えてもらえないので、○をつけ回答するような項目をそれぞれ設定している。

会長

前は来ない人にアンケート取るべきというご意見があり、そういったことについてはまだ検討されてないということか。

事務局

現在取りまとめているデータについて、分析ができていないのでこの場では示すことができないと思っており、来園の目的、頻度、滞在時間等の結果だけなら出せるので次回示す。前回の協議会の時に意見のあった、来ない方についてのアンケート調査等はできていないので今後の課題とする。

会長

どこの施設でも言われることで、毎年定型で実施しているアンケートだけでは、不十分な部分があるので、検討をお願いします。

委員

駐車場の無料化は前々から要望としてあり、現在平日無料化の効果はあるか。

事務局

わんぱく広場の遊具更新と平日駐車場の無料化が重なったので、平日の利用はやはり増えてきているという実感はある。気軽に来られるようになったのかなど。

委員

地元の方の強い要望だった。完全に無料化になったらいいが、今のところ平日だけだがありがたい。

会長

これからはどのバランスが一番いいかの検討も必要で、駐車場収入がなくなることは困るため、イベント等で事業者の方に儲けてもらった上で、管理者としては駐車場で収益を得る。その収益できちんと運営をする。完全無料化は難しく、どこで収益を得るかを考えることも必要である。無理をしたら、適切な運営というのが続かない。

休 憩 (5分間)

(3) 広報、情報発信の強化

・事務局より資料5説明

意見交換／各委員からの主な意見と事務局の回答

委員

いろいろな情報発信をする中で新聞は皆さん結構読まれている。だからプレスリリースをきっちりして、聞いた記者が記事にしたのかというぐらいの発信の仕方をして、

神戸新聞等にも載せてもらおうと凄く問い合わせが入る。それと割引券の話について、今の若い方はインセンティブを求めるケースが多いのでこれは引き続き積極的にやっていって欲しい。あとラストもう一つはこの前、業界の人間から聞いた話で今のAIはどんどん進化しており、例えばSNSのアクセスを急激にアップさせることもでき、書き込みもできるらしい。投稿に対していいねを押すこともできる。ただアクセス数が増えた割にお客さんが来ないというのは、悪意のあるAIロボットがアクセス数を増やしているかもしれない、書き込みを増やしているかもしれない。だからウェブ上にある数字だけを信頼しないように実際にどれだけの人が来ているかを把握することも大切である。

会長

情報を発信する際は新聞報道や投げ込み等をしているか。

事務局

当所の場合は西播磨、中播磨合同で記者懇談会というのがあり、それ以外にも随時実際に記者の方を集めた会は月に1回程度あり、他にも電話やメールでそれぞれの新聞記者の方に情報提供を随時できるようなシステムになっている。目を引くようなタイトルや文面でないとなかなか記事にしてもらえないところがあり、その辺りは我々も工夫が必要かと。

会長

これまでも言ってきた告知の広報だけではなく、実施した告知でこんなに人が来ましたという方が新聞に載りやすいので、特に新聞記者には写真つきで映えるものを渡すことが有効である。

委員

インスタグラムで「赤穂海浜公園」で検索し、どんな人がどんな投稿をしているのかを見てみると、ヤシの並木のところで並木を背景にして、集合写真を撮っている場合が多い。シンボルの並木道になるので当然といえば当然だが、それは計画しているものとは良い意味で少し違う使い方で、こういう魅力として我々が見出しているものとは違うところで魅力を発掘してくれている。SNSの広報はただ発信するだけではなく、見て利用のされた方や今流行っているところを参考にすると良い。

会長

映えるものを勝手に広報してもらうことがこれらの目的なので、そういった環境を作るとするのは非常に大事である。

会長

割引券系の配布が少し難しいという話は、もちろん費用をかけるほど利用者は嬉しいというのはあるが、最初のきっかけ作りとして有効だからやるということはあるけれど、それですとお客さんを呼ぶということはなかなか難しい。

(3) 地域や企業・団体、大学等との連携強化

・事務局より資料6説明

意見交換／各委員からの主な意見と事務局の回答

委員

自動車のオフ会にはいろいろなものがあり、フェラーリの所有者たちが映えるところを求めていたりする。公園管理者は車を何台も並べたりするのは嫌がるのが多く、場所とか使い勝手次第かなど。不法改造車とかではないことだけを確認すれば、やっ

ていくと意外と色々な方々がくるかもしれない。舗装しているところで一同に介する場所は以外とないのでそういうのを求めている場合がある。

会長

かきまつり等の従来のここらしいイベントに加え、コスプレ、バイクの展示会、映画撮影等のイベントの申込があるのはこんなこともやっていいという情報を発信しているからだと思う。これまでもこのようなイベントの申込はあったか。

事務局

そういう意味では、問い合わせは増えた気がする。以前は毎年実施しているイベントは別にして、新たにこんなことをやりたいということ事態があまりなかった。

委員

近隣の姫路や明石でいろいろなイベントが実施されており、そういったところに実際に足を運んで大会の責任者の方と名刺交換をし、イベントを見た感じで海浜公園に呼べたらいいとか、これは少し違うなというのを体感したらいいと思う。

会長

新しいハードルを下げたルールで実施した結果、やっぱり良くなかったとか、こういったものがあつたら来てくれるということも分かつたら、随時、告知の仕方やルールの改編もしていくべきである。そういった失敗も含めて、改善していければいい。

4 その他 / 事務局

(1) 施設整備実施について / 事務局

- ・事務局より資料7（整備に関する資料）を説明

(2) 次回開催について / 事務局

- ・次回は2月の中旬から末頃開催予定で1月に日程調整を行う

令和3年10月29日（金）に開催された第4回赤穂海浜公園管理運営協議会議事録については、上記の通りであると認め署名する。

議事録署名人

会 長

赤穂 宏樹

委 員

目木 敏明

(別添)

第4回赤穂海浜公園管理運営協議会 出席者名簿

令和3年10月29日(金)

赤穂海浜公園オートキャンプ場 大会議室(キャンパーズルーム)

区分	所属等	氏名	出欠
学識者	兵庫県立大学 教授 (人と自然の博物館)	赤澤 宏樹	出席
	兵庫県立大学 准教授 (淡路景観園芸学校)	澤田 佳宏	欠席
	関西福祉大学 准教授	山本 浩二	欠席
地域団体	御崎地区連合自治会 会長代行	角岡 一頼	出席
	尾崎地区連合自治会 会長	目木 敏明	出席
	地域活動連絡協議会 会長	岩崎 由美子	欠席
	赤穂観光協会 事務局長	梅本 邦夫	出席
	赤穂市漁業協同組合 参事	平田 一典	欠席
指定管理者	(公財)兵庫県園芸・公園 協会 総務部長	中谷 光孝	出席
行政機関 (赤穂市)	産業振興部長	明石 一成	出席
	教育委員会 教育次長	長坂 幸則	出席
行政機関 (兵庫県)	県土整備部まちづくり局 公園緑地課 課長	北村 智顕	出席
	西播磨県民局光都土木事務所 所長	荒谷 一平	出席

事務局

指定管理者	赤穂海浜公園管理事務所 所長	高田 直隆	
	赤穂海浜公園管理事務所 参事	荻野 直哉	
	赤穂海浜公園管理事務所 参事	圓見 文明	
	赤穂海浜公園管理事務所	尼崎 佳三	
	赤穂海浜公園管理事務所 課長	兒嶋 稔	
西播磨県民局 光都土木事務 所	管理課 課長	小原 孝彦	
	港湾課 課長	佐藤 潤子	
	港湾課 課長補佐	大谷 朝俊	
	港湾課 職員	塩濱 裕也	